

MetaMoJi 活用ポイント： 制作・鑑賞ノートの作成

～制作過程を写真と文章で残すことで、協働的な学びを作り出し、表現や鑑賞を深める～

1 題材名 パッケージのデザイン（A表現・B鑑賞／デザイン）

2 題材の目標

- 形や色彩、質感などの効果、全体のイメージなどを捉え、材料の特性を生かして表す。
- 目的や条件、美しさや使いやすさ、入れるもののイメージなどを基に、形や色彩などの効果などを考え、構想を練ったり鑑賞したりする。
- パッケージをデザインする創造活動に、主体的に取り組む。

3 題材の評価規準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	<p>「知」 形や色彩の性質及びそれらが感情にもたらす効果や、使う人、場面、目的や条件、機能、用途などと造形的な特徴を基に、全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>「技」 意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながらアクリル絵の具の特性を生かし、見通しをもって創造的に表している。</p>	<p>「発」 使う人の心情や使用する場などで求められる機能などのイメージから主題を生成し、形や色彩など感情にもたらす効果や材料の性質や構造などと美しさとの調和などを総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」 機能や用途、洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態表」 主題を生み出し、材料の性質や構造などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創造的に工夫し見通しをもって表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>「態鑑」 機能や用途、洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。</p>

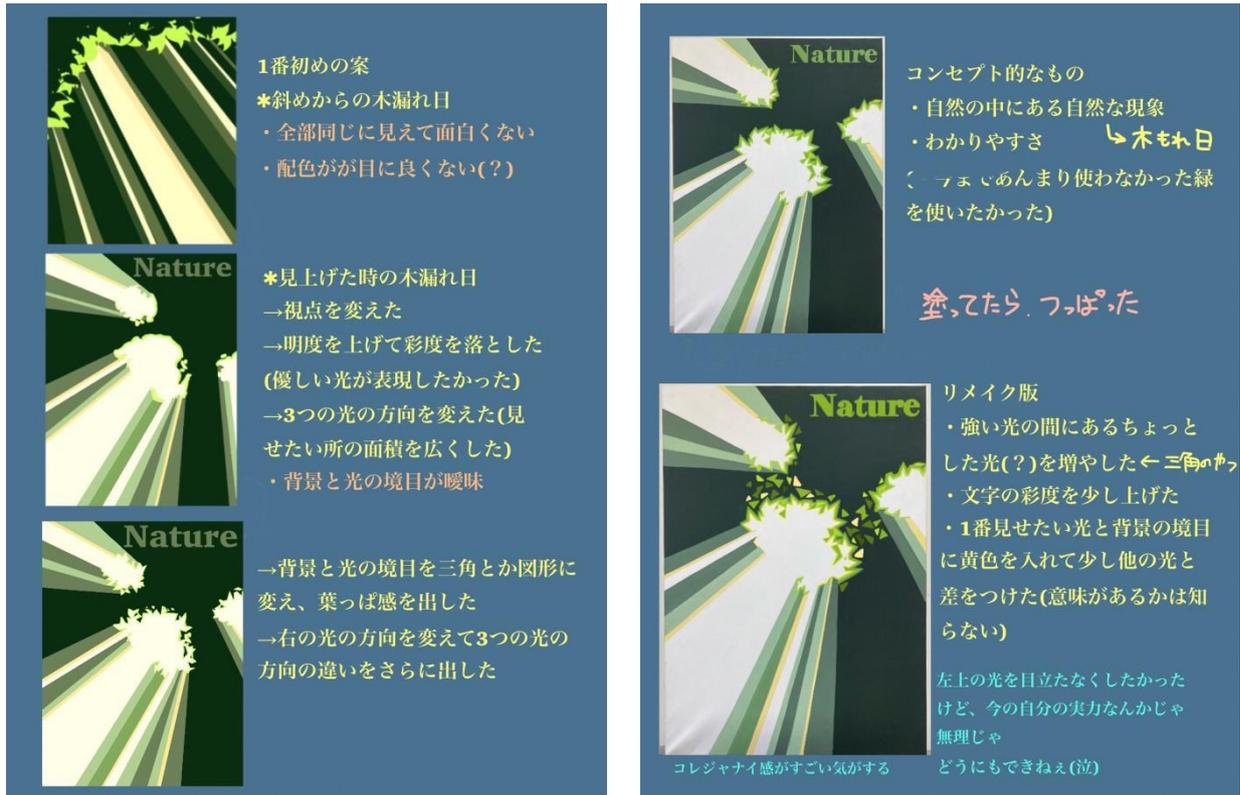
4 指導と「MetaMoJi」活用計画（全6時間）

職	◆主な学習活動	指導の手立て
1	<p>○パッケージデザインで大切なことは何かを考える。</p> <p>【MetaMoJi を活用した制作・鑑賞ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの作品を写真撮影し、MetaMoJi の白紙のページに貼り付ける。 ・お気に入りの作品から、使う人、場面、目的や条件、機能や用途などの造形的な特徴を基に、気付いたことを入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの事柄に目が行くように、様々なデザインされたパッケージを提示する。 ・機能的に必要なことと、なくてもよいものの整理をすることで、目的と機能の両面から考えられるようにする。
6	<p>○パッケージデザインの形や色彩を考える。</p> <p>【MetaMoJi を活用した制作・鑑賞ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画用紙にアクリル絵の具で着色した作品をきりのよいところで写真撮影し、MetaMoJi の白紙のページに貼り付ける。 ・形や色彩の性質及びそれらが感情にもたらす効果や、使う人、場面、目的や条件、機能、用途などと造形的な特徴を基に、全体のイメージで気付いたことを入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度、写真撮影を指示し、制作過程をポートフォリオとして記録に残す。 ・[共通事項] を基に、気付いたことや感じたことを記入する。 ・ペイント機能によるエスキースを紹介する。
1	<p>○互いに制作した作品を紹介する。</p> <p>【MetaMoJi を活用した制作・鑑賞ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終作品を写真撮影し、作品介绍ページを作成する。 ・仲間の作品のよさを付箋機能を使って貼り付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋機能の使い方 ・[共通事項] を基に、気付いたことや感じたことを記入する。

5 成果と課題

(1) 成果

【図表1】生徒AのMetaMoJiによる制作・鑑賞ノート



- ・紙版のワークシートで、毎時間に振り返りを記入していた時にはいつも同じことを書く生徒がいた。しかし、MetaMoJiで、写真と文章で制作・鑑賞記録を残すようになったことで、前時からの比較や本時の学習活動に対する振り返りができるようになり、内容の質が高まった。
- ・制作の過程を写真で蓄積することができるため、生徒はその時間や題材全体における学習の変容を自覚することができる。また、教師は蓄積された写真と振り返りの文章を常に確認することができるため、生徒の制作途中の変容や思いを把握することができる。
- ・生徒は制作途中を写真で残すことができるため、前時の終末表現と本時の学習後の表現を必然的に比較して記入することができる。
- ・教師は、ワークシートを回収しなくても、授業後に確認できるようになり、学習状況を把握しやすくなった。
- ・生徒同士の交流について、前時までの表現と比較しながら批評し合う姿が見られるようになり、自然な形での協働的な学びの姿が生まれてきている。

(2) 課題

- ・美術科における振り返りは、造形的な見方・考え方を働かせながら〔共通事項〕で振り返る姿をめざしている。生徒Bは自分のスマホで作品を写真撮影し、自分のスマホにインストールされているペイントアプリ「ibisPaint」を使って、色彩と形を現在の作品写真に直接書き込みながら振り返りをしている(図表2)。このように生徒がICT端末を用具・材料の一つとして扱っている姿やICT端末を活用しながら資質・能力を発揮している姿が見られ、学校で使用している一人一台端末も弾力的にアプリがインストールできるようになることを願う。
- ・ICT端末の機能を活用することで表現や鑑賞を深める学習の実践を、特にデザイン及び情報メディア分野において開拓・検証をしていきたい。



【図表2】生徒Bの制作・鑑賞ノート